整理番号：1280110
製品名：ﾗｯﾌﾟｼｰﾙ
改訂日：2015 年 6 月 1 日

安全データシート(SDS)

1．製品および会社情報

会 社 名	：	昭石化工株式会社
住　　所	：	東京都港区台場 2−3−2（担当部門：営業部）
電話番号	：	03−5531−7063（Fax03−5531−6811）

製品名　　ラップシール

2．危険有害性の要約

ＧＨＳ分類

引火性液体		：	区分３
急性毒性	経口	：	区分外
	経皮	：	区分外
	吸入（蒸気）	：	分類できない
皮膚刺激・腐食性		：	区分外
眼に対する重篤な損傷性・眼刺激性		：	区分２Ｂ
感作性	呼吸器	：	分類できない
	皮膚	：	分類できない
生殖細胞変異原性		：	分類できない
発がん性		：	区分外
生殖毒性		：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)		：	分類できない
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)		：	分類できない
吸引性呼吸器有害性		：	分類できない
水生環境有害性（急性）		：	区分３
水生環境有害性（慢性）		：	区分３

＊記載がないものは分類対象外または分類できない。

ＧＨＳラベル要素

絵文字またはシンボル

注意喚起語　　：　警告

危険有害性情報

有害性	：	引火性液体および蒸気 眼刺激
環境影響	：	水生生物に有害 長期継続的影響により水生生物に有害
化学物質等の分類(日本方式)	：	引火性液体
危険性(物理的・化学的)	：	高温になると引火、燃焼しやすくなる。
特定の危険有害性	：	蒸気は空気より重く、低所に滞留し爆発性混合ガスを生成することがある。

注意書き

安全対策 ： 使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
熱, 火花, 裸火, 高温の着火元になるものから遠ざけること。
容器を密閉しておくこと。
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
粉じん／ミスト／ヒューム／蒸気／ガス／スプレーを吸引しないこと。
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面／呼吸用保護具を着用すること。
汚染された作業着は作業場から出さないこと。汚染した衣類を再使用するときは、洗濯し汚染を除去すること。指定された個人用保護具を使用すること。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
環境への放出を避けること。

救急処置 ： 火災の場合には、消火に水、粉末、二酸化炭素、泡消火器を使用すること。
飲み込んだ場合は、水で口の中を洗い、直ちに医師の診断を受ける。可能ならば吐き出させる。
皮膚に付着した場合は、多量の水と石けんで洗うこと。汚染された衣類を全て脱ぐこと／取り除くこと。
皮膚刺激／発疹が生じた場合、医師の手当を受けること。
吸入した場合、呼吸が困難な場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
呼吸に関する症状が出た場合、気分が悪いときは、医師に連絡、診断を受けること。
眼に入った場合、水で十分注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当を受けること。
暴露または暴露の懸念がある場合、医師の診断、手当を受けること。

保管 ： 直射日光、雨水を避け、火気･熱源から遠ざけ、容器を密閉し涼しい換気の良い場所に保管すること。

廃棄 ： 内容物や容器は都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

３．組成，成分情報

単一製品・混合物の区分 ： 混合物

化学名（一般名／別名） ： 改質アスファルト系シーリング材（改質アスファルト系シート重ね部目地処理材）

成分及び含有量 ： 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ，ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ，充填剤

成分名	含有量（%）	化学式	CAS No.	官報公示整理番号	PRTR 法
石油ｱｽﾌｧﾙﾄ	35	特定できない	64742-93-4	化審法 9-1719/安衛法 12-189	非該当
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ	30	特定できない	8052-41-3	化審法 ― /安衛法 9-551	非該当

※石油ｱｽﾌｧﾙﾄ：労働安全衛生法 第57条の2 通知対象物 第168号 鉱油

４．応急処置

目に入った場合 ： 直ちに大量の流水で 15 分以上洗い流す。洗眼の際、眼球とまぶたの隅々まで洗浄し、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼刺激が持続する場合は、速やかに医師の診察、手当を受ける。

皮膚に付着した場合 ： 直ちに全ての汚染された衣類を速やかに脱ぐこと。付着物を布にて素早く拭き取る。大量の水及び石けん又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い流す。
溶剤、シンナーは使用しないこと。かゆみ、炎症等の異常があれば直ちに医師の診断を受ける。

吸入した場合 ： 直ちに空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させ安静にする。気分が悪いときは医師の診断を受ける。

飲み込んだ場合 ： 水で口の中を洗い、安静にして医師の診断を受ける。嘔吐が自然に起こったときは、嘔吐物が気管に入らないよう身体を斜めにする。嘔吐物は飲み込ませないこと。

５．火災時の措置

消火剤	：	粉末・二酸化炭素・泡消火剤、乾燥砂、噴霧水。棒状放水による消火は行わないこと。
特定の消火方法	：	付近の可燃性の物を速やかに周囲から取り除き、保護具を着用して消火作業は風上から行う。
消火を行う者の保護	：	耐熱性着衣及び保護具を使用する。燃焼あるいは高温により刺激性、毒性及び/または腐食性のガスを発生するおそれを考慮し、呼吸器用保護具を着用する。
火災周辺の措置	：	関係者以外の立入りを禁止する。付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除く。

６．漏出時の措置

人体に対する注意事項	：	作業の際には適切な保護具（ｺﾞﾑ又はﾌﾟﾗｽﾁｯｸ手袋、呼吸器用保護具、ｴﾌﾟﾛﾝ、ｺﾞｰｸﾞﾙ等）を着用する。着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。
環境に対する注意事項	：	河川等へ排出され、環境へ影響を起こすことがないように注意する。
除去方法	：	漏出物はｽｺｯﾌﾟなどで密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。乾燥砂、土、その他の不燃性のものに吸着させて回収する。大量の流出には盛り土などで囲って流出を防止する。
二次災害の防止	：	衝撃、静電気などで火花が発生しないような材質の用具を用いて回収する。付着物・廃棄物などは、関係法規に基づいて処理をすること。

７．取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策	：	換気の良い場所で取扱う。容器はその都度密栓し蒸気、ガス等を飛散、発生させない。蒸気の発生源を密閉するする設備または局所排気装置を設ける。周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。火気厳禁。
取扱者の暴露防止	：	保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面等の保護具を着用する。取扱い後は、洗顔、手洗い及びうがいを十分に行う。
安全取扱注意事項	：	皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、眼に入らないように適切な保護具を着用する。使用済みｳｪｽ、塗料かす等は廃棄するまで水に浸けておく。

保管

技術的対策（保管条件）	：	直射日光や雨水を避け、火気、熱源から遠ざけて通風、換気の良い冷暗所に密閉し保管する。開封後は速やかに使い切る。

８．暴露防止及び保護措置

設備対策	：	屋内作業場での使用の場合は、発生源の密閉化、換気又は局所排気装置の設置を行う。取扱い場所の近くには高温、発火源となるものを置かないような設備とすること。洗眼、洗顔および身体洗浄のための設備を設ける。
管理濃度	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ,ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ；設定されていない
許容濃度	：	

	日本産業衛生学会	ACGIH
石油ｱｽﾌｧﾙﾄ	未設定	TWA 0.5mg/m^3(Asphalt fume as benzene-soluble aerosol)
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ	未設定	TWA 100ppm

適切な保護具

呼吸器系の保護	：	必要に応じて呼吸器保護具を着用する。
手の保護具	：	耐油性(不浸透性ゴム)の保護手袋を着用する。
目の保護	：	保護眼鏡を着用する。
皮膚及び身体の保護具	：	長袖保護服及び保護長靴を着用する。

９．物理的及び化学的性質

物理的状態　形状	：	ペースト状
色	：	黒
臭気	：	石油臭
ＰＨ	：	データなし
融点	：	80℃以上(石油ｱｽﾌｧﾙﾄの軟化点)
沸点	：	175～325℃
引火点	：	58℃(ﾀｸﾞ法密閉式)
自然発火点	：	210～220℃(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ)、480℃以上(石油ｱｽﾌｧﾙﾄ)
爆発特性(下限～上限)	：	0.6～5.5vol%(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ)
蒸気密度(空気＝1)	：	4.5(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ)
密度(g/cm^3)	：	1.15
溶媒に対する溶解性	：	有機溶剤に可溶、水に不溶

１０．安定性及び反応性

安定性	：	通常の取扱い条件では安定である。
反応性	：	58℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。強酸化剤との接触を避ける。
危険有害反応性	：	58℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	：	58℃以上および混触危険物質との接触を避ける。
混触危険物質	：	高温の物体,火花,裸火,静電気火花等の熱源を避ける。ﾊﾛｹﾞﾝ類,強酸類,ｱﾙｶﾘ類,酸化性物質との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	：	燃焼の際、煙,一酸化炭素,亜硫酸ガス等を発生する。爆発性混合気体。

１１．有害性情報

引火性液体	：	製品引火点；58℃、混合物として【区分３】に分類。
急性毒性	：	(経口) 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;ﾗｯﾄ,LD50≧5000mg/kg(区分外)、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;ﾗｯﾄ,LD50＞15000mg/kg(区分外) 混合物として【区分外】に分類。 (経皮) 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;ｳｻｷﾞ LD50≧2000mg/kg(区分５)、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データなし(分類できない) 混合物として【区分外】に分類。 (吸入) 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;データなし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データなし、混合物として【分類できない】。
皮膚腐食性/刺激性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;ﾄﾞﾚｲｽﾞﾃｽﾄの結果は刺激性なし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;区分外、混合物として【区分外】に分類。
眼損傷/眼刺激性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;ﾄﾞﾚｲｽﾞﾃｽﾄの結果,軽度の刺激性あり(区分２Ｂ)、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;区分外、 混合物として【区分２Ｂ】に分類
感作性	：	(皮膚)　石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;データなし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データなし、混合物として【分類できない】。 (呼吸器) 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;データなし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データなし、混合物として【分類できない】。
発がん性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;IARC(国際がん研究機関)は, “Bitumens”について「ｸﾞﾙｰﾌﾟ3(ﾋﾄに対して発がん性について分類できない物質)」に分類 ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;IARCがｸﾛｼﾝを含むJet Fuelをｸﾞﾙｰﾌﾟ3に分類。　混合物として【区分外】に分類。
生殖細胞変異原性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;データなし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;分類できない、混合物として【分類できない】。
生殖毒性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;データなし、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;分類できない、混合物として【分類できない】。
特定標的臓器・全身毒性(単回暴露)	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;黒ﾈｽﾞﾐに対し,針入度級ｱｽﾌｧﾙﾄを200mg/3monthsに皮下注射を行ったが,解剖所見で皮膚腫瘍は見られなかった。ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データなし。混合物として【分類できない】。
特定標的臓器・全身毒性(反復暴露)	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;ｱｽﾌｧﾙﾄﾋｭｰﾑの吸入試験(ﾏｳｽ,6～7hrs/日,5日/週で21ヶ月)で気管湿潤,肺炎,繊毛損失,上皮萎縮および皮膚肥厚が認められた(区分２)。ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;データ不足(分類できない)。 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ・区分２としたが、ｱｽﾌｧﾙﾄは通常の温度では蒸発しないが、道路舗装や屋根防水時に加熱する際、ﾋｭｰﾑを発生するが何百年もの間、作業員が反復暴露し臓器への毒性を訴えた者は不明であり、煙等で一時的(可逆的)に喉の痛み、眼の刺激を訴えることがある。急性毒性ﾃﾞｰﾀ等を含め、混合物として【分類できない】。
吸引性呼吸器有害性	：	石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;動粘性率･8000mm^2/s(区分外),ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;ﾃﾞｰﾀなし。混合物として【分類できない】。

１２．環境影響情報

生体毒性 ： 水性環境有害性；
石油ｱｽﾌｧﾙﾄ 現在のところ有用な情報なし(分類できない)
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄLC50(96hrs) 魚類(ﾌﾞﾙｰｷﾞﾙ) 2.2mg/L(区分２)
・水性環境急性有害性；混合物として【区分３】に分類
・水性環境慢性有害性；分解性、蓄積性データより、混合物として【区分３】に分類

残留性、分解性 ： 石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;(水溶解度・不溶),水中での分散性は非常に乏しく、浮くか沈むかであり分解性はない。明らかにいつまでも持続する物質であり、生分解性がないことが特長でもある。
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ;急速分解性を示すデータがない。

生体蓄積性 ： log Kow=3.3～6(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ,計算値)、6 以上(石油ｱｽﾌｧﾙﾄ)
石油ｱｽﾌｧﾙﾄ;log Kow 値より,生体蓄積性有りと判定されるが,実際には極めて水に難溶であり,このような高分子量の物質が水中生物の体内に取り込まれることは考えにくい。

土壌中の移動性 ： 現在のところ有用な情報なし。(石油ｱｽﾌｧﾙﾄは土壌中の移動性はない。)

他の有害影響 ： 漏洩、廃棄の際には、環境に影響を与える恐れがあるので、取扱いに注意する。特に製品や洗浄水が地面、川、排水溝に直接流れないように対処すること。

１３．廃棄上の注意

以下の情報を参考に分類の上、許可を受けた専門業者に処理を委託する。詳細は法律（廃掃法及び容器包装リサイクル法）に従う。
（容器、機器装置等を洗浄した溶剤等は地面や排水溝へ流さないこと。）

容器・包装の廃棄 ： 空容器類を廃棄するときは、内容物を完全に除去した後に産業廃棄物として処理または回収する。
（ ）に管理型・安定型の区分を示す。
外箱、紙管など紙製容器・包装：回収または紙くずとして処理。(単体で管理型産業廃棄物、付着成分がある場合も管理型産業廃棄物)
金属缶、金属ドラム、金属チューブ類：金属くずとして処理。(単独で安定型産業廃棄物、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う。)
プラスチック製のボトル、チューブ、袋など：廃プラスチックとして処理（単独で安定型産廃、付着成分がある場合はその安定型・管理型分類に従う。)

１４．輸送上の注意

輸送の特定の安全対策及び条件 ： 取扱い及び保管上の注意の項の一般的注意に従うこと。
容器の漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷の無いように積み込み、荷崩れの防止を確実に行うこと。

陸上 ： 消防法、労働安全衛生法、毒劇法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
消防法；危険物第 4 類第 2 石油類(非水溶性)
危険物の規制に関する規則(別表第３の２)；容器は金属製容器(１８L)
(注)容器は危険物の規制に関する技術上の基準の細目を定める告示第 68 条の 5 に定める容器試験基準に適合していることを自主確認すること。
容器表示；危険物第 4 類第 2 石油類(非水溶性)・危険等級Ⅲ・火気厳禁
積載方法；運搬時の積み重ね高さは 3m以下

海上 ： 船舶安全法に定めるところに従うこと。

航空 ： 航空法に定めるところに従うこと。

国連番号・分類 ： 該当しない。

１５．適用法令

法規制 ： 化学物質管理促進法（PRTR 法）及び労働安全衛生法 57 条の 2 第 1 項 通知対象物の該否については 3. 組成、成分情報内に示す。
労働安全衛生法；有機則・第 3 種有機溶剤 ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ
消防法；危険物 第 4 類第 2 石油類
船舶安全法；引火性液体類
航空法； 引火性液体
港則法；危険物・引火性液体類
海洋汚染防止法；有害液体物質（Ｙ類物質） ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ
大気汚染防止法；揮発性有機化合物 ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ
毒物及び劇物取締法；該当しない

１６．その他の情報

引用、参考文献 ： JIS Z 7252(2014) GHS に基づく化学物質等の分類方法
国連 GHS 文書（2013）
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)ホームページ GHS 分類結果データベース
日本化学工業協会 GHS 対応ガイドライン(平成 20 年 10 月)
管理濃度：作業環境評価基準(2004.10 改訂、2005.4.1 施行)適用
日本産業衛生学会：許容濃度の勧告(2006)
化学工業日報社「化学品安全管理データブック」

含有量表示基準 ： PRTR 指定物質及び劇毒物は有効数字 2 桁。労安通知物質その他は 5%刻みの未満表示（10%未満の場合は 1%刻み）で表す。

・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。なお、新しい知見により改訂されることがあります。
・危険、有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意してください。
・注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。特別な取扱いをする場合には、用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。また、本製品を本来の用途以外に使用しないでください。